

ラジオママネット ～ママトーク～

第 10 回放送の概要（2018 年 1 月 27 日）

本日のテーマ：「ワンオペ育児」

前回の放送と同じようにフリートークで番組がはじまりました。

本日の参加者は 4 人です。自己紹介をします。

あっちゃん：50 歳代、子ども 2 人（女子）は 20 歳を過ぎています。算数教室、初めてのおけいこの指導員。

あやちゃん：30 代前半。2 歳の女の子。ママネットの番組に参加している。離乳食、幼児食の教室をしている。

まきちゃん：1 年生の女の子、4 年生の男の子、昨日中学校の入学説明会に参加した、6 年生の女の子。

まきちゃんは小学校の 6 年間はあっという間に過ぎたと感じた。あっちゃんは次の 3 年間は瞬きする間のように感じた。あやちゃんは、自分自身の小学生の時は 1 年 1 年とても長く感じた。小学生が一番成長する時期でもある。まきちゃんは今着ている服は 6 年生の子どもと一緒に着ている。1 年生の子どもと比較し成長の早さを実感している。

ちゃんちゃんは、まきちゃんが自分の子どもをいい子と言えるのは素敵で、そのような親になりたい。普通は子どものマイナス面ばかり目につく。親しかプラスに評価してあげられない。他人からの意見、印象は” またまた ” となるが、親に言われると、少し恥ずかしいが見てくれていると思いうれしく感じる。

近所の人から我が子をかわいいねと言われた時、どう反応するかというまきちゃんの問いに、普通” そんな事ないですよ ” と言うが、まきちゃんはそのように言ったことがない。” そうなんですか ” と本当にそう思っているの言っている。あやちゃんはそのようには言えないが、” そんな事ないですよ ” は言わない方が良く何かで読んだので言わないようにしており、特に女の子だから見た目の自信がなく育つのはかわいそうと思い、” かわいいんやて、ありがとうと言ったとき、よかったね ” というようにしている。ちゃんちゃんは、自分に自信がないので、子どもの評価は自分の評価と考えてしまい、” かわいいね ” ” 男前やね ” と言われるが自分が恥ずかしくなる。 ” 上手に育てているね ” と言われるのは泣きそうなくらいうれしいが、ありがとうございますと言えない。向上心が凄いなからなのか。ちゃんちゃんは人には言える。自分には許せないところがあり、欲張りなので自分に求めるものが多すぎる。

自己紹介の続き ちゃんちゃん（ちおん）：30 代前半、2 歳の男の子。あやちゃんの子どもの同じ年齢。先日子ども同士が初めて出会った時すぐに意気投合し仲良しになった。子どもはお母さん同志が仲良くなるとすぐに仲良しになる。ちゃんちゃんが苦手な人と思いつつ顔色をうかがい一生懸命話をしている相手には、息子はおいでといわれても、母親の顔を伺いどうしようかなという仕草をする。すごく敏感である。あやちゃんのこどもは愛想をふりまきすぎるので、連れて行かれるのでは心配している。

ママネットの活動は月2回婦人会館でベビーマッサージの講師をしている。最近ブログ、HPから参加してくれる人がいる。こんなにうれしいことはない。パソコン苦手だが地道に何回も書き直してやっと公表出来るようになり、誰かが読んでくれていると思うと本当にうれしい。

本日のテーマは「ワンオペ育児」。

ワンオペ育児は one operation 一人作業のことで、飲食店などで一人で廻さなければならないことが一時ニュースで取り上げられたが、ネット派生の言葉で、ワンオペ育児ママなどと言われるようになった。一人で子育てしているママ、パパなどの状況が似ているところから言われるようになった。昔はワンオペで、お母さんだけが育児のすべてをしてきた。昔の人からすると当たり前のことだが、今はほとんど女性がリードする社会になってきたからこそ、なんでという声が上がってきたからと思う。

昔は近所のみんが専業主婦で、時間のあるお母さん同志が預けあったり、面倒を見あったりすることが出来た。今、専業主婦のお母さんが、何かしたいので預けたいと思っても、専業主婦仲間が近所にはいない。現在は世間的にはそのような地域が多いのではないか。1歳になると預けて働く人が多いので、少子化になっているにも関わらず保育園が不足している。地域によって保育園が余っているところもある。働く場所が都会に集中しそこで保育園が不足している面がある。

まきちゃんは先日東京に行ったがベビーカーで通る事を遠慮しないとイケない空気を感じた。エレベーターは目茶並んでおり、ベビーカーの人はいつ乗れるか心配になった。電車内ではパパの抱っこ紐がお殆どであった。人が多すぎるのでベビーカーをたたまないのかという目で見られる。

昔は言われなかったワンオペが何故言われるようになったのかについて、昔は専業主婦同志の横の付き合い、つながりがあったがだったので、家で子どもと1対1でいると苦しくなる時もあるが、隣人と話をすることで意識が分散し、気分転換になりエネルギーになり、家事を負担なく出来るようになる。卒業し、就職し仕事をバリバリしてきた。しかし育児で辞めた時に仕事をしてきたかったのにと、子どもが泣いたりするとわぁーとなり、出産でホルモンバランスが変わり、余計に悲観的になる。この状況には色んなパターンがあると思う。

専業主婦は子どものことと家事をこなす、働いているお母さんはそれにプラス仕事をして、そのため子どもを預ける必要があるので保育園の送り迎えをする。そうするとスーパーマンかといえるくらいやることがある。シングルのお母さんの場合、泣こうがわめこうが誰も助けてくれない。そういう方を想像すると本当にお疲れさまと言いたい。子どもはある程度大きくなると、子どもに助けを求めることも出来ない。がむしゃらにやるしかない。なんで女性だけがこんななんやろとみんなが言い出したからわーとなっているが、それが普通やと言っていた時は誰も言わなかった。自分が我慢できてないだけということになる。そのような声を拾ってくれるところがなかった。今はインターネット、SNSで発信し易くなった。昔は自分で言う場がなく、溜めてそれがモチベーションになって頑張れた。

昔は言うところがなく、それが当たり前でコツコツやってきたお母さん達が、今50代60代を迎えて言える世の中になったから、我々子育て真っ只中の若者世代を見て、長年の蓄積されてされたものが、

その頃はいいやとして自分の中で我慢しながら頑張ってきたものが、今は出せる世の中になってきた。昔は男子がどーんとしていたので怖くて言えなかったが、今は男子が少し弱くなっている。本心は子どもと育児で目茶過ごしたいと思っているパパが、今まではそう思っても自分は仕事をしなければと思ってきた男子が浮き彫りになってくる。PTAもママが働くなら自分がやってもいいという男子が出てきている。やりたい人がやっていくのも悪くはない。今は一番過渡期で、時代の変化の境目である。会社で旦那がこのような話をするとうんオペ万歳のママもいるようで、旦那に遅く帰って来てほしいと言う人もいる。大きな子供がもう一人いると言うママがいる。旦那はいない方が全然いいと言う人もいる。

<お知らせ>

うんオペ回避には上手にお願いすることが必要。自分に余裕がないと出来ない。頼む時はやってほしい事を自分の中で整理する余裕がないと頼めない。頼む発想が生まれない時がある。前もって常に頼む順番を決めておくことが大事。例えば風呂はお父さん、いつもそのようにしているとお父さんも勝手にわかってくる。頼む時いくらパニくっていても、頼む優先順位を自分の中で決めておくといい。頼んでやってくれるパパはいるが、やらないパパはいくら頼んでもやらない。一人の子どもでも大変とと思っている時に次の子どもが生まれたらどうなるのかと考える。生まれた場合はどちらの子どもを優先するのかということになる。今日は、あやちゃんはパパが初めてのうんオペの日です。いつも放送日は預けているが、今日は11時に家を出て子どもが寝るまでは帰れず一日いないので、状況を後日報告します。パパはこういうのは出来なしと思わず、パパに預ける勇気も必要。家がくちゃくちゃになってもやらせてみてそれを評価すべきと思う。預けない友達はその時間が不安過ぎる(何するかわからない)と思っている。まきちゃんはパパには預けられなかったが両親には預けた。

以上